

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	小平どろんこ保育園
施設所在地	小平市津田町3-33-13
法人名	社会福祉法人どろんこ会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光と影遊び

<テーマの設定理由>

自然体験として動植物に触れられる機会を年間を通じて設けていたが、身の回りの自然を探求する機会が不足していたため、この機会に『光と影遊び』を保育に取り入れた。

2. 活動スケジュール

令和7年6月に戸外にて色眼鏡遊びを実施。

令和8年3月に保育室にて影遊びを実施。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

6月に戸外で実施した色眼鏡遊びでは、カラーセロファンを用いて眼鏡を製作した。

3月に実施した影遊びでは、段ボール・障子紙を使用しスクリーンを作成した。カラーセロファン・懐中電灯を用いて物体を照らしスクリーンに影が反映されるようにした。また、カラーセロファン・コップを用いて万華鏡を作成し懐中電灯で照らすことで光が反射される仕組みを作成した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

色眼鏡遊びでは、普段目にしている環境に色をくわえることで子どもたちがどんな反応を見せるのか見守っていった。1・2歳児で実施し、友だち同士の顔を色眼鏡越しで見合い「あか！あお！」と笑いあっていた。色の認識・友だち関係において発達が促進されたのではないかと考える。また、影遊びではスクリーンに反映された物体の影を予測することで、表現の思考の幅が広がったのではないと思う。今回の実施では、保育者が厳選した物体の影遊びであったが、今後子どもたちが選んだ物体の影がどのような形を見せるのか試行ししながら活動を発展させたい。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

1歳児の発語の発達がゆったりな子どもが、2歳児と一緒に活動を色眼鏡遊びを実施することで「あか・あお」と模倣しながら発語していた。影遊びでは、保育者の「これ何かな」の問いかけに対して「ちょうちょ・おばけ」など個人で感じたこと発言できる場にもなった。カラーセロファンを用いて製作した万華鏡では、壁に反射する光を見て「きれい・〇〇もやってみたい」と言い合い、子ども同士で懐中電灯を貸し借りしあっていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

作成した物を長時間保育室へ提供することで、子どもたちの発達に応じて遊びが展開していった。継続した保育を実施することで、自ずと子どもたちの発達が見えてくることを改めて感じることができた。2026年4月以降、幼児の入園後も継続して保育環境に設置していく。